

**No English title available**

Patent number: JP62058344 (U) Also published as:  
Publication date: 1987-04-10 JP2048365 (Y2)  
Inventor(s):  
Applicant(s):  
Classification:  
- international: B65D30/08; B65D 33/38; B65D77/06; B65D30/08; B65D 33/36;  
B65D77/06; (IPC1-7): B65D33/38; B65D30/08  
- european:  
Application number: JP19850148906U 19850 928  
Priority number(s): JP19850148906U 19850 928

Abstract not available for JP 62058344 (U)

---

Data supplied from the esp@cenet database — Worldwide

## ⑪公開実用新案公報 (U)

昭62-58344

⑫Int.Cl.

B 65 D 33/38  
30/08

識別記号

庁内整理番号

⑬公開 昭和62年(1987)4月10日

6833-3E  
6833-3E

審査請求 未請求 (全1頁)

⑭考案の名称 注出口付袋

⑮実願 昭60-148906

⑯出願 昭60(1985)9月28日

⑰考案者 麻生邦彦 東京都台東区台東1丁目5番1号 凸版印刷株式会社内

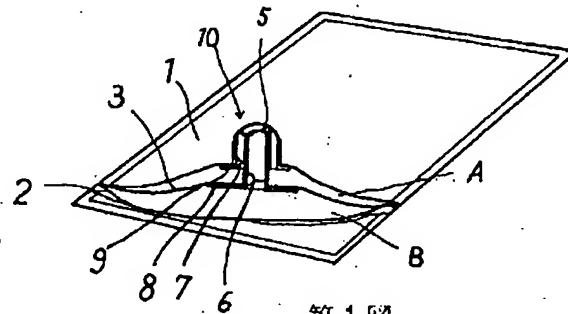
⑱出願人 凸版印刷株式会社 東京都台東区台東1丁目5番1号

## ⑲実用新案登録請求の範囲

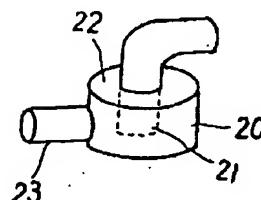
部分的な連結部により一体化した内筒と外筒の二重構造で、内筒の方が外筒より長く、内筒、外筒の下端にそれぞれ固定部を設けた注出口を中間に設けた仕切フィルムで2室を形成した袋に前記袋の仕切フィルムに内筒の固定部を、外側フィルムに外筒の固定部を固定してなる注出口付袋。

## 図面の簡単な説明

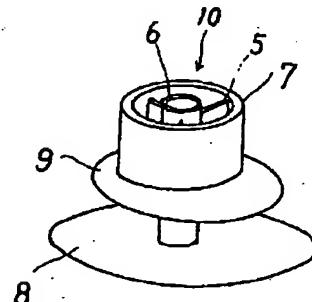
第1図は、本考案の一実施例を示す部分破断説



第1図



第3図



第2図

公開実用 昭和62- 58344 D2

⑨日本国特許庁 (JP)

⑩実用新案出願公開

⑪公開実用新案公報 (U) 昭62- 58344

⑫Int.Cl.  
B 65 D 33/38  
30/08

識別記号 廳内整理番号  
6833-3E  
6833-3E

⑬公開 昭和62年(1987)4月10日  
審査請求 未請求 (全頁)

⑭考案の名称 注出口付袋

⑮実 願 昭60-148906

⑯出 願 昭60(1985)9月28日

参考案者 麻生 邦彦 東京都台東区台東1丁目5番1号 凸版印刷株式会社内  
出願人 凸版印刷株式会社 東京都台東区台東1丁目5番1号

明細書

1. 考案の名称

注出口付袋

2. 實用新案登録請求の範囲

(1) 部分的な連結部により一体化した内筒と外筒の二重構造で、内筒の方が外筒より長く、内筒、外筒の下端にそれぞれ固定部を設けた注出口を中间に設けた仕切フィルムで2室を形成した袋に前記袋の仕切フィルムに内筒の固定部を、外側フィルムに外筒の固定部を固着してなる注出口付袋。

3. 考案の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本考案は、仕切フィルムで仕切られ2室に分離された袋のそれぞれの室から、それぞれの室に充填された液体を1つの注出口から混合することなく注出できる注出口付袋に関するものである。

〔従来技術およびその問題点〕

袋を仕切フィルムで仕切り2室に分離した袋に注出口を設ける場合は、例えば、実開昭56-



94754号公報に示されるように、それぞれの室の外側のフィルムに注出口を設けた構造が一般的である。

このように2つの注出口を設けて、それぞれ2室に内容物を注入したり、注入した内容物を混合することなく注出することができるが、注出口を設けるため、袋を単に仕切フィルムで仕切る構造では、製造不可能で、工程が煩雑なものとなってしまうものであった。

〔解決しようとする問題点〕

袋を一枚の仕切フィルムで仕切るだけで2室が形成されかつ、1つの注出口を設けた2室を有する注出口付袋を提供することである。

〔問題点を解決するための手段〕

部分的な連結部で一体化した内筒と外筒の二重構造で、内筒の方が外筒より長く、それぞれ内筒、外筒の下端に固定部を設けた注出口を中間の仕切フィルムで2室を形成した袋に前記袋の仕切フィルムに内筒の固定部をまた外側フィルムに外筒の固定部を固着することにより解決した。



### 〔作用〕

注出口が内筒と外筒の2重構造からなり、内筒の方が外筒より長く、それぞれ袋の仕切フィルムと外側フィルムに固着しているので、内筒と外筒とに別々に注出入可能なノズルを嵌着することにより、2室に内容物が混ぜることなく注入、また2室から混ぜることなく注出することができる。

### 〔実施例〕

本考案の実施例を図面に従い説明する。

第1図は、部分破断説明図で、外側フィルム(1)(2)間に外側フィルムと同じ大きさの仕切フィルム(3)を設け、周囲をヒートシールにより密封した2室(A)(B)を形成した袋に部分的な連結部(5)で一体化した内筒(6)と外筒(7)の二重構造で、内筒(6)の方が外筒(7)より長く、内筒(6)および外筒(7)のそれぞれ下端に円形の固定部(8)(9)を設けた注出口(10)を、固定部(8)が仕切フィルム(3)の内側に、固定部(9)が外側フィルム(1)の内側にヒートシールにより固着した注出口付袋である。

第1図に示した袋の注出口(10)の詳細は、第2図



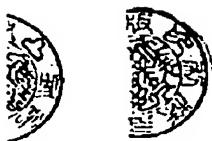
に示した通りで、その構造は、前述の通りである。

前記、注出口10の内筒16)が外筒(7)より長いことは、前述の通りであるが、内筒(6)は、少なくとも下方に長い分だけ伸びていればよい。

また、下方だけでなく上方に少し内筒(6)が外筒(7)より伸びていれば、内容物を注出入するとき用いるノズルを嵌着し易い。

内容物の注出入に用いるノズルは、二重構造で、それぞれ注出口の内筒(6)および外筒(7)に嵌着する構造であればよい。例えば第3図に示すように、円筒状の外壁20と、外壁20と同心状の内壁22からなり、外壁22の天板24により、外壁20と内壁22は一体化し、内壁22は、天板24より外側に伸び、かつ、外壁22の一箇所に円筒26が設けた構造のノズルである。

上記構造の袋の内容物の注出入は、異なる2つの内容物を同時に注出入するのではなく、例えば現像液のようにA室に入れた現像液を現像機で使用後、使用した廃液をB室に回収する使用方法も可能である。



### 〔効果〕

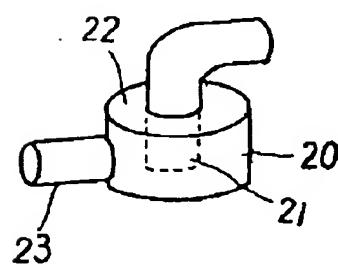
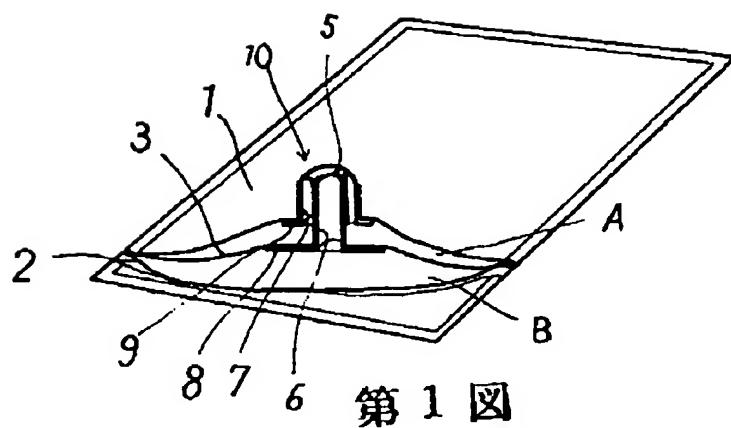
本考案の袋は、以上の構成からなるので、2室の袋でありながら、1つの注出口で、2つの内容物を混ぜることなく注出入可能で、本考案の袋を収納する外装体には、1つの穴を設けるだけによく、使用に際して組立て易いものである。

また、袋は一枚の仕切フィルムを外側フィルム間に設けるだけで2室が形成できるので、従来のように2つの注出口を設けるための複雑であった仕切フィルムの構造を簡単化できた。

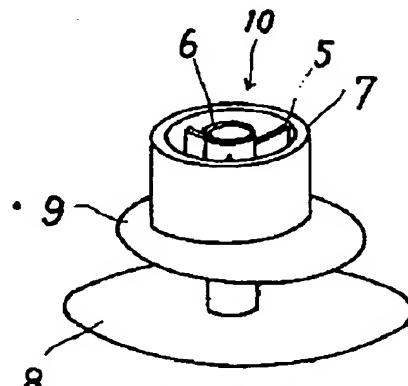
#### 4. 図面の簡単な説明

第1図は、本考案の一実施例を示す部分破断説明図、第2図は、注出口の一例を示す斜視図、第3図は、内容物の注出入時に用いるノズルの一例を示す斜視図である。

|            |              |
|------------|--------------|
| A、B … 室    | 1、2 … 外側フィルム |
| 3 … 仕切フィルム | 5 … 連結部      |
| 6 … 内筒     | 7 … 外筒       |
| 8、9 … 固定部  | 10 … 注出口     |



第3図



第2図

実用新案登録出願人

6.18 凸版印刷株式会社  
代表者 鈴木和夫